

# Call me Kuchu 上映会

「私が私であること」によって奪われていく「性と生」

民衆の差別感情を煽り立てるメディアや政治家と、  
それでも自らの存在を確かめ今日を生きのびる人々、  
神という名の暴力と希望……。

とき：2017年 3月 20日（祝・月）

13：00 受付 13：30 開演

ところ：名古屋 YWCA 参加費：500円

「私が私である」ことによって奪われていく日常は  
遠い国のことなのか、それとも私たちの別の姿なのか…。

作品情報：『Call Me Kuchu』

監督：Katherine Fairfax Wright, Malika Zouhali-Worrall

2012 | 米国・ウガンダ | 87 min 音声：英語 | 字幕：日本語

裏面に上映会情報



この作品は二人の監督が「反同性愛法」の成立をめくり闘っていたウガンダの性的少数者やその仲間たちを描いたドキュメンタリーです。

アフリカ中部地域にあるウガンダで2014年2月、同性愛者を終身刑にできる「反同性愛法」が成立しました。国際的な非難が起こる巻き起こる中で、ウガンダに生きる性的少数者たちはより深刻な状況におかれるようになりました。

国民の多くがキリスト教的な背景を持つ国で、キリスト教信仰が政治や特定の集団に利用されてしまうと同時に、熱心な信仰による悲しい現実もストレートに描かれています。

### ウガンダの歴史背景

- 1962年 ウガンダが英国から独立。英国が持ち込んだソドミー法(同性間の性交渉を犯罪とみなす刑法)はそのまま残る。
- 2009年3月 2000年代からウガンダで反同性愛の活動をはじめた米国キリスト教福音派たちが、アンチLGBTのセミナーを大々的に開催する。
- 2009年 ウガンダ国会が初めて「反同性愛法案」を可決。ムセヴェニ大統領は国際社会からの反発を恐れて署名を拒否し不成立に。以後、国会で何度も同法案が可決し、そのたびに署名を拒否。
- 2010年10月 ウガンダの新聞社が「かれらを縛り首にしろ」という見出しで同性愛者100人の個人情報を掲載。
- 2011年1月 ウガンダ最高裁は問題となった新聞の差止めと被害者への損害賠償を命じる。
- 2011年1月 ウガンダで初めて公にゲイをカミングアウトしたLGBT活動のリーダー、デイビッド・カトーが撲殺される。
- 2013年12月 ウガンダ国会は圧倒的多数で「反同性愛法案」を可決。
- 2014年2月 大統領の署名により「反同性愛法」が成立。
- 2014年8月 ウガンダ最高裁、議決の手続きに問題があったとして「反同性愛法」は無効との判決を下す。
- 2015年11月 同性愛の「宣伝」やLGBTI支援にたずさわる非政府組織を違法とする法案が可決。性的少数者の権利運動は最高で懲役8年の刑。

## 上映会情報

とき：2017年3月20日(祝・月)

プログラム：

13:30 「Call me kuchu」の背景にあるもの 案内：マーク・ダンカンさん(東海キリストの心の会)

14:00 「Call me kuchu」上映

15:30 フリートークカフェ お茶をしながら語り合しましょう！

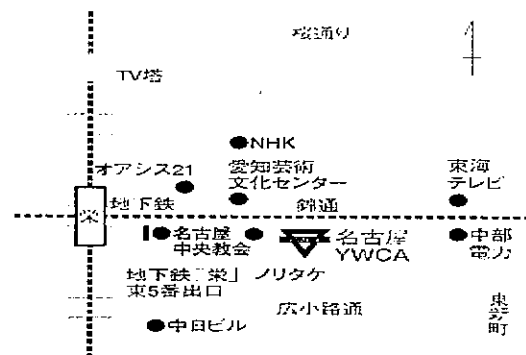
(自由参加：お茶代別途100円程度)

ところ：名古屋YWCA

愛知県名古屋市中区新栄町2-3

地下鉄「栄」⑤出口より東に徒歩3分

参加費：500円



共催：やっぱ愛ダホ！ Idaho-net、東海キリストの心の会、公益財団法人名古屋YWCA女性部会、日本基督教団愛知西地区性差別問題を考える委員会、日本聖公会中部教区社会宣教部

後援：名古屋キリスト教協議会

連絡先：052-961-7707 名古屋YWCA女性部会(担当：松村)